



礼拝スタイルと音楽

『現代の礼拝スタイル』 - その多様性と選択を考える -
(ポール・バスデン著、越川弘英、坂下道朗訳)を巡って

福永 保昭 (相模中央教会牧師)

わたしたちの教会の生命線ともいえる礼拝。この礼拝をどのように準備し、整え行うかは、牧師のみならず教会員全体の関心事であり、またそうであってほしいところである。

米国バプテストの礼拝学者ポール・バスデンの書いた「現代の礼拝スタイルーその多様性と選択を考える」は、代表的な5つの礼拝スタイルをあげながら、これからの礼拝の課題を模索している。1)礼典を大事にするリタージカルスタイル、2)トラディショナルスタイル、3)伝道集会的リヴァイヴァリストスタイル、4)現代的賛美を多用するプレイズアンドワーシップスタイル、5)求道者に焦点を当てるシーカーサービススタイルの5つのスタイルをあげ、その神学的方向性をあきらかにしている。

礼拝のスタイルに言及する時、音楽のみをその対象として考えることが多いのではないだろうか。しかし、バスデンは、その礼拝スタイルがどんなパースペクティブ(眺望)や目的を持っているのかを明らかにし、それは、聖書の扱い方、説教者の神学、語り口にいたるまで影響を及ぼすと言っている。

礼拝のスタイルを考える時、音楽のスタイルに頼るといことはあるだろうが、それだけでは一つの体系化された礼拝としての力は出てこないのではないだろうか。ましてや、どれほど教会形成の力となるのか問われなければならないだろう。

そういう意味で、自分達の求めるパースペクティブをもった礼拝を考え構築していく必要を説くこの本の意図は意味深い。礼拝を牧師の所有物かのようにしてしまう危険からとき放ち、教会員が共に学び、礼拝を形づくる教会形成に資する動きが今、まさに求められているのではないかと思う。

後半の具体的な提言、「何に向かってデザインされているか」も非常に教えられる。礼拝に息づく一つのパターンを知り、その礼拝のテーマを知り、礼拝の時(教会暦)を知りながら、教会の会衆を牧会し、知りながら、礼拝を計画することが求められている。

現代の礼拝のスタイルはあまりに多様である。といっても、我々の礼拝は、よい意味でも悪い意味でもトラディショナルスタイルから脱することができないでいる。そのような現実の中で、わたしたちの会衆がどこに向かおうとしているのかをもう一度再点検し、共に作り上げる自由さが求められている。このことは教会形成と伝道にも大きな指針となるのではないだろうか。

新生讃美歌と私

～新生讃美歌50年のあゆみから～

第7回 次の世代の新しい賛美歌集のために

藤澤 一清

1990～2003年 宣教部主事(教会音楽担当)

第一次新生讃美歌編集委員

新生讃美歌編集事務(主事)

『新生讃美歌』(2003)が発行されて6年を経ようとしています。刊行当初、製作に携わった一人としては、多くの困難を伴いながらやっと出版に漕ぎつけたという喜びよりも、この賛美歌集が諸教会の期待に応えられるものなのか、また広く受け入れられるものなのか、それに著作権について万全を期したものの瑕疵がないかなど、多くの不安を抱えたままの船出でした。しかし諸教会の理解をいただき、また初期の予想を超えて広く普及し、資金の返済も順調にすすんだことに安堵しています。もちろんこれには、連盟教会音楽室の強力な推進や教会音楽を担っておられる方々の大きな努力があったことを忘れることはできません。

『新生讃美歌』成立の経緯については、「まえがき」に記述されています。最初のころの連盟諸教会では、特別伝道集会が盛んでした。賛美歌集といえば、『讃美歌』(日本基督教団出版局)と『聖歌』(日本福音連盟聖歌編集委員会)ぐらいでしたが、特伝で使える賛美歌集がほしいとの連盟理事会の意向で、編集委員会による小さな編集作業が始められたのは1958年。もう50年前のことです。その長い間の積み重ねによって形になったものが現『新生讃美歌』です。

『新生讃美歌』は、理事会によって選出された10人の委員によって編集されました。もともと賛美歌は、教派をこえて引き継がれてきた共有財産です。そこで、理事会が委員会に託したバプテスト賛美歌集とは何か、時間をかけて議論したことを覚えています。本来ならば、日本というこの時代この場において生きるバプテストが、実際の礼拝や信仰をつねに自己批判しながら将来を展望するということから、新しいバプテスト賛美歌集を生み出していくのでしょうか。しかし委員会はそこまで煮詰めるような十分な時間や資金の余裕はなく、身近にある賛美歌に直接当たりながら具体的作業に入らなければなりませんでした。

編集委員は、神学や音楽についてはそれぞれ異なる個性を備えておられる方々です。ですからその共同作業は、自らの主張をしながら他の意見を受け入れていくという実に骨の折れる仕事でした。特に選曲については意見が完全に一致することは少なく、決めるにはすべて多数決でしたから、委員の自己主張は通りませんでした。この票数は、製作の最終段階まで尊重されました。ですから、それぞれが抱いておられる賛美歌集についての期待やイメージを互いにすり合わせていく許容と忍耐の連続だったといえます。ストレ

 ~ 新生讃美歌のあゆみ ~

日本バプテスト連盟創立	1947年
「新生讃美歌」	1957年
「新生讃美歌」	1963年
「新生讃美歌」改訂版	1966年
「新生讃美歌」	1982年
「新生讃美歌」	1984年
「新生讃美歌」	1989年
「新生讃美歌増補」	1997年
「新生讃美歌増補」	1999年
「新生讃美歌」改訂版	2003年

スしか残らない仕事に、どなたも投げ出さな
いで続けてくださったのは奇跡というほか
ありません。『新生讃美歌』は、編集作業に
おいて最もバプテストらしかったのではな
かったかと、内心苦笑しています。

『新生讃美歌』は、創作曲や新しい分野の
ものを積極的に取り入れ、将来へ希望を託し
ていますが、しかしそれは、日本バプテスト
連盟教会音楽60年の良きにつけ悪きにつ
け、総まとめの性格を持っています。私自身
はその流れの中で、時には反発をおぼえなが
らも育てられてきた世代の一人です。その感
謝として、この総括の仕事に携わることがで
きたことを幸いに思っています。そして次の
世代がこの『新生讃美歌』を客観的に検証し
ながら継承し、新しい時代に相応しい新しい
賛美歌集を創り出してくださるための踏み
台になれば、と願うばかりです。

私自身、編集作業にとりかかって10数年。
最初の頃は実際に多くの賛美歌の詞や曲に
あたり、翻訳などの作業を楽しんでいたのは
良かったのですが、そのうち編集委員会が選
曲し指示した内容を形にし、歌集にしていく
のが自分の役目であることを自覚してから
というものは、私見は一切控え、事に当たり
ました。しかし慣れない、遅遅とした作業に

焦りを感じていた時、賛美歌集の製作は辞
書作りと同じで二度とやりたくないという
編集経験者の話を聞き、とんでもない仕事
を引き受けてしまったと悔やんだことでし
た。しかし梯子を外されて降りられなくな
ってしまったからには、最後まで担うほ
かありません。今も先も見えない作業だけ
れど、ある日突然、形になって出現するから
と自分を、また薬を飲みながら日夜懸命に
頑張らせてくださっているスタッフの方々を
励ましながらの、長い年月でした。しかしこ
の背後には、理事会や事務所の方々、そして
全国諸教会の忍耐と励ましがあつたことを
忘れることはできません。私事に亘りませ
が、花小金井教会の牧師の働きを担いなが
らの仕事でした。教会や家族の理解や協力
がなければ続けられなかったことを思い出
しながら、この紙上を借りて感謝する次第
です。

実際に使用してみて、製作の表裏を知る
者として見えてくる問題も多々あります。
しかし『新生讃美歌』を手にする時、不思議
にも難産の子をいとおしむ親のような気持
ちになります。

(花小金井教会員)

教会音楽室からのお知らせ



教会音楽専門委員会

全国の諸教会・伝道所の礼拝賛美・教会音楽を支えるための研修会企画推進、また、『新生讃美歌』を用いての賛美の推進、付随品の企画等を行っています。

岩崎 光洋	大富教会 牧師
宇都宮 毅	釧路教会 牧師
菊地るみ子	大井教会 音楽主事
斎藤信一郎	平針教会 牧師



賛美歌検討委員会

『新生讃美歌』を、さらに充実させ、発展させるために、本年度から設けられました。

- 1) 『新生讃美歌』の曲の検討
 - 2) 現代の讃美歌の研究と収集
- を行っていきます。

伊藤 園子	目白ヶ丘教会 オルガニスト
中田 義直	市川大野教会 牧師
福永 保昭	相模中央教会 牧師
濱野 道雄	宣教研究所 所長



全国地方連合教会音楽連絡協議会

各地方連合から教会音楽担当者に集まっていたいただき、連盟と地方連合の教会音楽活動の情報を交換し、課題を協議し、また共に学ぶ場として計画しています。

開催日：9月8日・9日



全国礼拝音楽研修会

第6回 東北地方連合協力

11月23日(月・祝)

第7回 関西地方連合協力

2010年1月11日(月・祝)

* 詳細は追ってお知らせいたします。

『新生讃美歌ニュースレター NEWSONG』は連盟ホームページでもご覧いただけます
音楽奉仕者、聖歌隊員用に、もっと欲しい!とご希望があれば、別便でお送りします
教会音楽室までご連絡を! TEL: 048-883-1091 E-mail: kyokai-ongaku@bapren.jp

2009年度出版予定

『新生讃美歌』小型版

アンケートでも、研修会でもご希望が多かった小型版、2009年夏に刊行です。

『ユースソングブック』 525円(予価)

たくさんのオリジナルソングのご応募、本当にありがとうございました。

私たちバプテストの協力伝道から生まれた、新しい賛美歌集にご期待下さい。

『新生讃美歌CD』 2100円(予価)

バプテスト連盟のメンバーによる演奏CDの製作が進んでいます。

2008年度刊行です お求めは「連盟 販売管理室」へ

『新生讃美歌』(ビニール装丁) 3885円

『新生讃美歌 伴奏用CD-ROMバージョンアップ版』

3150円



ギターで弾こう 新生讃美歌

Vol.3

教会音楽専門委員
岩崎光洋(大富教会)

ギタリストの皆さん、ギター弾いていますか？私は最近あらためてクラシックギターを一生懸命練習しています。賛美歌をクラシックギターの独奏で弾くのも素敵ですよ。そのうちリクエストでもあれば、ギター独奏の賛美歌楽譜を紹介しましょう。

今回は「新生讃美歌の363番のコードを知りたい」というリクエストと、「ペンテコステにふさわしい賛美歌をお願いします」というリクエストをいただきましたので、その二つにお答えしたいと思います。

まずは363番「キリスト、教会の主よ」です。

キリスト 教会の主よ (新生363番)

G C F C Dm G⁷
C C⁷ F D⁷ C G⁷ C
C F G⁷ C Am A⁷ Dsus⁴ G⁷
C⁷ F Em⁷ Am A^b C Gsus⁷ G⁷ C

厳密に考えると、本当はベース音が動いているところがあって分数コードが複雑になっているのですが、いつものように分数コードの分母は省略して幾らか簡略化した表記にしています。

4段目の2小節目にあるAは、特にギタリストには押えにくい厄介なコードですから、無視して飛ばしてもいいでしょう。

次はペンテコステを意識しつつ『新生讃美歌』の目次の「聖霊」の項目に載っている賛美歌をいくつか取り上げましょう。まず最初は263番「満たしたまえ、み霊よ」です。

満たしたまえ み霊を (新生 263)

まずは極力4声のアレンジをそのまま拾ってみました。

私もこれをそのまま弾けと言われても弾けませんっ。

当然、今までと同じく以下の方向で弾きやすくなるように検討します。

弾きやすいコードが多くなるようにカポを3フレットにつけて移調する。

分数コードの分母(ベース音)はあきらめて弾かない。(歌の伴奏としては大勢に影響は無いはず)

下の楽譜がそれです。メロディーもコードに合わせて移調してあります。もちろん聞こえてくる音程は元の楽譜どおりの音程(Fメジャー)になります。

263番 3カポ簡略化バージョン

ここからさらに簡略化して、DsusはDのままでも良いでしょうし、AとA7はどちらかに統一しても問題ありません。そうするとこの曲はD、G、A(もしくはA7)の3つのコードだけで弾けるということがわかりました。初めにFの楽譜を見たときは面倒な曲に思いましたが、意外とシンプルな曲だったようです。

さて次も、同じように簡単と思える曲を見つけましたよ！ 265 番「ほむべきかな、み子を降し」です。まずは4声のコード表記を拾い上げてみましょう。

ほむべきかな み子を降し (新生265)

F F/C F/A F F/A C⁷/G F F/C F/A F
 F B^b/F F F/C C C F
 B^b F F B^b F C F
 B^b F B^b F/C C F

相変わらず分数コードは面倒ですね。特に見た目ゴチャゴチャした印象です。これを先の曲と同じく3カポで分母(ベース音)を取り除けてみましょう。

D
 D G D A D
 G D G D A D
 G D G D A D

これ以上無いほどに簡単になりました！

コードの変わり目が2拍目、3拍目にあるのが少し戸惑うところかもしれませんが、なんといてもD、G、Aという、ギタリストにとっては最も得意とするコード3つだけで弾けるのはうれしいですね。先ほどの263番と同じく、AはA7に置き換えても問題ありません。また、この3コードだけではあまりに簡単でつまらないと思われる方は、始めの楽譜を参考にしてベース音をしっかりとなぞって弾いてみると良いでしょう。低音がしっかり出る良いギターを持っている人ならかなりバージョンアップした雰囲気が期待できます。

最後は 272 番「神の息よ」です。

神の息よ (新生272)

F B^b/F (B^bm/F) F F/A C^{sus}7/G F B^b6 B^m7⁽⁻⁵⁾ C

F B^b/F E^m7⁽⁻⁵⁾/G F/A F B^bmaj⁹ B^b6 G^m B^b6 F/C C F/C F/C C⁷ F

2小節目、()をつけた B m/F は実は二つの音しかないので表記が難しく、個人的には F(+5)、もしくは C /F と書いても良いかと思いましたが、どちらも面倒なので、B の音を足して聴感上雰囲気に近いと思われるコードを表記しました。

また、この曲も、3フレットにカポをつけて弾いてみます。

D G G^m D D A^{sus}7 D G E⁷ A

D G A⁷ D G E^m D A D D A⁷ D

分数コードの分母もいつものように無視しました。全体的雰囲気には影響が無いと思います。

2小節目の Gm は前述の通り、通過音的なコードなので面倒であれば弾かなくてもいいと思います。

「ペンテコステの曲を」ということで、みなさまの教会のさんびの少しでもお役に立てたでしょうか？

前号で少し取り上げたコードを変えてみる「リハーモナイズ」については、今回はスペースとスケジュールの関係で触れることが出来ませんでした。次回もう一度取り上げたいと思います。コードを変えるだけでなくリズムも変えたりすると、さらに賛美歌が楽しくなります。一年ほど前の 2008 年 3 月に行われた「全国小羊会キャンプ」では「主、我を愛す」をヒップホップバージョンにして賛美したり、昨年夏に東北地方連合で行われた「信徒大会」では「昔主イエスのまきたまいし」をサンバで歌ったり(踊ったり?)しました。そのようなこともいつかご紹介できたらと思っています。

また、「ギターで弾こう新生讃美歌」に対するご意見・リクエストを、宣教部教会音楽室までお寄せください。お待ちしております。では、次号でお会いしましょう！